

四国 88 箇所歩き遍路第 9 回 5 日目 (以下 3 ページの写真をクリックすると拡大)

第 9 回 5 日目は 86 番志度寺、87 番長尾寺、88 番大窪寺の 20 キロ。いよいよ結願です。最終日の宿泊は大窪寺前の八十窪です。



栄荘から 10 分弱で志度寺に着きました。参道の右側、山門近くに常楽寺という小さな寺があり、境内には平賀源内の墓。源内の旧邸から 1 キロしか離れていません。源内は幼名伝次郎、四方吉、元服後は国倫(くにとし)。ほかに、鳩溪、風来山人、天竺浪人、福内鬼外、李山とさまざまな名前(号)をもっていました。彼は数多くの発明発見をしています、なんととっても有名なのはエレキテルでしょう。傷人事件で捕らえられ、獄中、52 歳で亡くなっています。

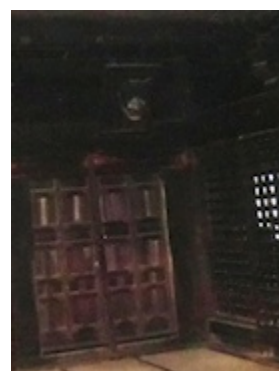


志度寺といえば美しい五重塔ですが、ほかにも変わったものがあります。

あの藤原不比等の妻だった海女の墓の隣には生駒親正の墓。讃岐の国主で丸亀上を築き、海女の墓は生駒家の先祖に当たると、志度寺を崇敬しました。



本堂と五重塔の間に小さなお堂があります。奪衣婆堂で怖い顔をしたお婆さんが祀られています。奪衣婆(だつえば)は三途の川のほとりにいて、亡者の着物を奪い取り、衣領樹(えりょうじゅ)の上にいる懸衣翁(けんえおう)に渡すという鬼婆のことで



以外に知られていないのが本堂横の暗い部屋に掛けられている般若の面。「肉付きの面」と言われています。

肉付きの面の伝説

志度に根性の悪い婆さんが居た。する事なす事嫁が憎くてたまらなかったと言う。とにかく分からず屋のいじわる婆さんであった。姑の下に仕えて、何一つ逆らうことなく働いている嫁は信仰心が厚く、まだ人の起きない内に志度寺に参拝し「今日は姑に気に入ってもらえますように」と、観音様にお祈りしていた。この事を知った姑は「私が早く死ぬようと、祈願をして居るのだろう」と邪推し、嫁が二度と寺参りをしない様に、一つ懲らしめてやろうと悪心を起した。あくる朝、嫁より早めに起きて、隠してあった「般若の面」をかぶり、寺の門で嫁の来るのを待ち構えていた。嫁はその朝に限ってお寺には参らなかった。姑は仕方なく、面を脱ごうとしたが、顔が引っ付いて取る事が出来ない。住職や駆けつけた人達で無理に脱がすと、姑の顔面が剥がれて、面にくっ付いていたと言います。

志度寺から長尾寺までは7キロ。途中に長尾寺の奥の院、玉泉寺があります。昔はお接待で賑うミニ札所だったらしい。ご本尊は日切地蔵。日切（ひきり）は日を限ってお願い事をすると功德が得られるということです。

長尾寺に入って先ず目に入ったのが松の木。特に由緒のある木ではありませんが、形が気に入りました。長尾寺は珍しいことに、真言宗ではなくて天台宗です。



さて、長尾寺からは結願の寺、大窪寺に向かいます。途中、お遍路サロンで「遍路大使任命書」を戴き、おはぎの接待も受けました。サロンは前山ダムのほりにあります。ダム建設に伴い、湖底に沈むことになった女体山守り神の女体宮の鳥居や、磐根橋の銘石がダムのそばに残されています。

サロンからは女体山への遍路道を進みましたが、女体山の中腹に太郎兵衛というところがあります。太郎兵衛は山里を荒らす猿を退治して、村の難儀を救った豪の者で、その名は地名として残りました。川も太郎兵衛川といいます。



女体山の頂上近くでは道とは思えないほどの岩場が現れ、最後は磐に取り付けられた金具の助けを借りてやっとよじ登れる難所でした。山頂からは霞んでいたものの、屋島寺の屋島と、八栗寺の五剣山が並び立つのを見ることが出来ました。

ここからは大窪寺にはただただ下るだけ。これが意外ときつく、脚に来ました。



大窪寺には霊場結願書があって、(2000 円で) 証書を発行してくれます。また、納経所では(300 円で) 朱印をいただけます。ただし、88ヶ寺では何処も朱印帳に日付を入れてくれません。折角の結願の日なので自分で日付を加えました。平成 23 年 12 月 12 日です。



大師堂の横にはなんとなく場違いな原爆の火があります。

しかしこの火はヒロシマに落とされた原爆の火です。福岡県星野村の山本さんが叔父の形見として郷里にもち帰り、大切に灯しつつづけてきたものだということです。

核兵器廃絶の願いをこめ、この火を大窪寺の境内に保存し、永久に人々の心に呼びかけています。この寺に相応しい碑になっています。

八十窪に入ったのは 4 時 40 分。風呂で汗を流した後、期待の食事です。八十窪では結願した遍路に赤飯を馳走してくれます。まずはビールで乾杯。たちまち赤面してしまいました。

赤飯が来て、量は十分と思っていたら続いて白飯も出てきました。チョッと無理かと思いましたが、頑張って食べきりました。満足、満足！しかし血糖値は大幅に上がってしまったことでしょう。



明日は志度駅から神戸に帰ります。逆打ちで駅まで歩くことを考えましたが、さすがに疲れしました。大窪寺 10 時発のバスに乗ることに変更です。

第9回 5日目の一言日記

第86番 補陀洛山 志度寺(しどじ)



藤原不比等が龍神から宝珠を取り返した海女でかつ妻の墓を建立。死渡道場。山門はまさに随一の名門(重文)。五重塔がある。

第87番 補陀洛山 長尾寺(ながおじ)



長尾の観音さん。昔は長尾寺の正門であった東門は栗林公園の北正門で嶮ノ口(幽谷への入口)御門。大正2年に移築された。

第88番 医王山 大窪寺(おおくぼじ)



88 カ寺結願の寺。大師が本堂後方の胎蔵ヶ峰で修法し、大きな窪の傍らに堂宇を建立、これが大窪寺の始まり。本尊は薬壺の代わりに法螺貝を持つ薬師如来。法螺で厄難諸病を吹き払う。